

【研究テーマ】

東豊力構想を基に、幼小中一貫教育を一体化・一貫化する カリキュラムマネジメントの推進

1 グループ校の概要

東豊田中（学級数20, 生徒数551, 教職員数50） 東豊田小（学級数31, 児童数794, 教職員数59）
東源台小（学級数18, 児童数589, 教職員数35） 連携：東豊田こども園 東豊田中央こども園

2 研究の目的

これから子どもたちが活躍していく社会は、国籍や性別など様々な違いをもった人々が立場を超えて協働していく多様性社会である。そこでよりよく生きていくためには「コミュニケーション力」や「表現力」など他者と共存しながら自分らしく生きていくための非認知的能力の育成が不可欠である。

そこで、教育内容を見直し、東豊田中グループで子どもたちに身につけたい力を「東豊力」としてまとめ、幼小中の12年間を一貫し、学校と園・家庭・地域が一体となって教育活動を展開していくことで、子どもたちの成長につなげていく。

3 取組内容

1. 幼小中で教育目標を一貫し、12年間かけて「東豊力」を育成

(1) こども園の営み

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を大切に教育活動を行っている。遊びを通して非認知的能力を育てているこども園での教育が、小中の教育の土台となっていることを、関係職員で共有。



(2) 学級力の育成

東豊力を育むために、安心して話ができる環境づくりを各学級で行っている。アンケートを実施し、子どもたち自身で学級の状態を分析、課題を見つけ、改善策を練り上げ、実行していくことで、安心して伝え合い、認め合うことができる学級をつくっている。

(3) 園児・児童・生徒の交流

「小学生による園児への読み聞かせ」「小学生と中学生によるあいさつ運動」などを予定し「園児と中学生による合同避難訓練」を再開した。小学校児童会と中学校生徒会のリモートでの交流も計画し、来年度から実施できるように準備を進めていく。小学校とこども園との間で「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」を作成し、園児から小学生へのスムーズな移行を図っている。

(4) 各教科の取り組み

各教科で東豊力（「伝える力」「認める力」「練り上げる力」）を育むために、夏季合同研修等で理解を深め、小中それぞれの授業で実践している。



2. 教育活動全体で身に付けたことを「地域創造型探究学習」で実践

(1) 小学校の様子



地域学習（3年生）、福祉教育（4年生）、環境教育（5年生）キャリア教育（6年生）を中心に「総合的な学習の時間」を進めている。5・6年生においては「しずおか学」も盛り込みながら、中学校につながる学習活動に取り組んでいる。地域にある公共施設「日本平動物園」や地域の「ものづくりに携わる人」との関わりから、多くのことを学んでいる。

(2) 中学校の様子

自分と静岡の未来を考える（1年生）、企業と静岡のプロジェクトを創る（2年生）、静岡の企業を通じて「働く」を考える（3年生）活動を、実際に世の中で活躍している人と関わりながら進めている。

3. 地域とともに子どもたちを育む「TOHOコミュニティ」の開催

(1) 活動内容

幼小中一貫教育の方針と各校園の運営方針の説明・承認、各校園の授業・保育参観、学校・こども園評価等を実施することで、学校やこども園と地域をつないでいる。

(2) 地域の願いから具体的な活動へ



地域の願い： 地域の人たちとのつながりを「自慢・誇り」に思える子どもたちになってほしい、小さい頃から地域で育てることの大切さを共有したい、など
具体的活動： 交通安全、補習補助、人材リストづくり、読み聞かせ、広報活動を準備、1枚の絵展を開催（感染症防止のため中止）

4 考察（成果と課題）

【子どもたちの言葉】

四月からは自分の意見を伝える努力をし「去年と別人みたいだ」と言われています。自分の意見を伝える力は「東豊力」の一つです。九月からも頑張っていきたいです。

全員の「東豊力」がパーフェクトになったら学校の授業は今の倍以上楽しくなるし、社会で強く生きることにもつながると思う。

【地域の人の言葉(TOHOコミュニティより)】

TOHOコミュニティに参加したことで、子どもの育ちを幼、小、中のたてのつながりで考えることが意識できるようになったことがよかった。

地域の子どもたちのために何ができるか悩んできたが、TOHOコミュニティに参加して、自分たちができていることが見えてきた。地域の人たちにもっと学校のよさや東豊力について発信していきたい。

【成果】

○2年間進めた結果、東豊力についての理解が広がった。

子どもたちの言葉に自然と「東豊力」という言葉が使われるようになるほどの広がりが見られる。

○課題と言われていた主体性や表現力について、以下のような自ら考え、表現する姿が見られるようになってきた。

- ・自ら課題意識をもって取り組み、自分の意見や考えなどの、内面を自分なりの表現で伝え合う姿
- ・仲間のアイデアや考えを受け入れ、そのよさを生かして支え合う姿

この2つは、多様な人と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手につながる姿であると考えます。

○地域の人々の理解をより得られるようになった。

もともと学校や園に対して協力的な地域であり、グループや学校や園の方針を説明し承認を得ることで、東豊田中グループの共同参画者として、ともに子どもたちを育む意識がより強くなった。

【課題】

●学校、家庭、地域への理解が少しずつ深まってきているが、浸透するまでには至っていない。

一部の人には伝わっているが、全体となるとまだ不十分である。広報活動に力を入れ、役割分担をすることで、関係する全員が主体的に取り組むことができるようにしていきたい。

●TOHOコミュニティにおいて熟議され、機は熟している。あとは具体的な活動へ。

コロナ禍でありながら、昨年度8回、今年度6回（うち1回は中止）会が開催され、熱い語り合いが行われた。スーパーバイザーの小松郁夫先生（京都大学特任教授）からも進むべき方向性が認められており、できることから進めていきたい。



5 今後の方向性

令和4年度4月の一斉スタートに向けて準備を進め、東豊力をはじめとする幼小中一貫教育の定着を図る。

1. 組織整備・交流

役割分担等の組織を整備し、小中園の職員の交流、職員と地域との連携を図り、発達段階等の互いの特色の理解を深め、グループ全体で中学校卒業時の子どもたちの姿をイメージした教育活動を展開していく。

2. 広報活動の充実

行われていることを関係者全員が共有することで、主体的に活動に取り組むことができるようにしていく。

以上を推進し、将来を見据え、持続可能な方法で教育活動が展開できるようにしていく。